

発行日 2019年10月10日

20号



〒247-0055 神奈川県鎌倉市小袋谷 2-2-39 ハーベストムーン 105号室
TEL. FAX: 0467-45-7430
E-mail lgjkamakura@nifty.com
<http://www.lovegreenjapan.org/>

発行者 相川 政夫 編集責任者 鈴木 倫子

JICA 草の根 技術協力事業 に関わる 仲間たち

JICA 草の根技術協力事業フェーズ3が2017年11月6日に開始され、本事業には日本人の専門家が関わってくれています。今回は取り組みに関係する方々を紹介いたします。



当会の支援はカブレ郡パンチカール市において、2022年11月5日まで5年間にわたり実施していきます。写真は2018年11月に実施した土壌調査参加者とLGNスタッフたちです。

■ 現：福島大学教授(前：横浜国立大学教授)金子信博氏(写真前列)と博士課程3年ビナエ・サンガット君(故 G・K・サンガット氏次男 後列左から4人目)、かごしま有機生産組合から野菜栽培、農業指導をお願いした三箇良治氏(後列左から3人目)、バイオガス調査にネパール入りしていた名古屋大准教授伊東香純氏(前列左)も土壌の調査に参加しました。

■ 土壌調査を通じて、農薬の削減に挑戦する
… 土壌生態学、森林科学 福島大学教授
(前：横浜国立大学教授) 金子信博

金子教授は当会の事業に2009年から土壌の調査を通じて、ネパールの農業へのアドバイスをして頂いています。毎年、現地を訪問して、土壌の定点観測や農民の持参した土の検査、土壌調査のシステム作りや人材の確保など、環境を重視した視点で協力を頂いています。学生を同行しての調査は将来のネパールにとっても貴重な資料となるでしょう！



■ 農民への野菜栽培の指導 … かがしま有機生産組合 三箇良治

三箇氏は3回目のネパール現地(パンチカール市)での農業指導を実施しました。2018年は一ヶ月間の滞在で人参栽培を指導いただき、農民たちは初めて人参栽培に挑戦して、自分たちの畑でも生産が可能であると喜ばれました。短い滞在の間に成果を上げることはとても難しい挑戦ですが、日本からも現場の野菜の育成状況を



チェックして指導を継続してもらっていることは今後、新しい野菜栽培に道を開くことになりそうです。写真は昨年、大地を守る会の方々自分たちの有機栽培経験を三箇氏と共有して、現地での栽培について語り合っています。日本の農業技術が現地で生かされることは当会が目指す技術協力的一端です。

■ バイオガスの調査を通じて 名古屋大学農学部 国際教育研究センター
… 実践地域開発部門 実践アジア開発研究室 伊藤香純 准教授



伊藤香純氏との縁は氏の大学院時代から始まり、18年近く当会への支援と指導を続けて頂いています。パンチカール市周辺部のバイオガスの調査を10年ほど前に実施、当時バイオガスの設置事業は盛んとなり、当会も事業地を中心に1300基あまりを設置してきました。今回はその後の使用状況や存在など調査を実施しました。2015年の地震の際にバイオガスは有効な熱源として活用されましたが、最近LPGガスの使用が高まっている。循環型農業の基本的な存在としてバイオガスの活用はネパールの経済面でも重要と考えられます。今後、伊藤氏には農産加工品の製造販売などへのアドバイスをお願いします。

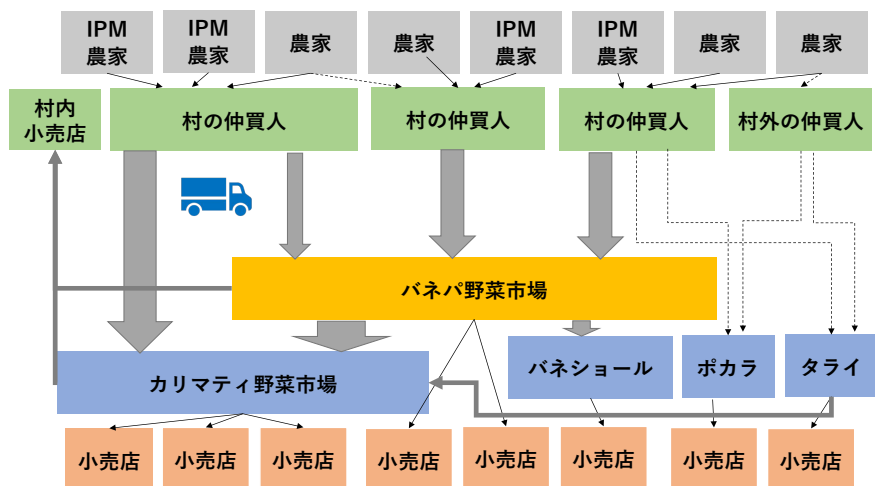
伊藤氏には農産加工品の製造販売などへのアドバイスをお願いします。

■ 将来に向けて野菜販売の可能性

… マーケトリサーチ 人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター
研究員 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 伊東さなえ 客員准教授

私がラブ・グリーン・ジャパン（LGJ）と出会ったのは、2012年ごろ、青年海外協力隊としてネパールで家庭ごみに関する活動をしていた時でした。LGJがバジャラバラヒ村での景観保護活動を始めようとしていた時期で、家庭ごみ処理についてのトレーニングをしてほしい、と依頼していただいたことがご縁でした。その後、大学院入学までの半年間ほど、LGJのインターンとしてカトマンズ事務所で景観保護活動の計画段階の調査を任させていただきました。大学院入学後はおもに文化人類学および社会学的な調査手法に基づいて、ネパールの廃棄物問題や、災害対応について研究を行い、博士号を取得しました。現在は客員准教授として、引き続きネパールの研究を続けています。2019年の8月に依頼を受け、文化人類学的・社会学的調査の経験と専門性を生かして、IPM野菜の流通に関する調査を行い、仲買人の実態の一端を明らかにすることができました。今後も専門家としてLGJの事業に関わっていきたいと思います。

カブレ郡パンチカール市におけるIPM野菜が流通される経路の実態図



■ インターンを通じて、マーケトリサーチを経験

… ワーゲニンゲン大学 (Wageningen University and Research) 大学院1年 中杉淳也

私は2019年5月から6月にかけての約1か月間、LGJのカトマンズオフィスにお世話になりました。昨年に続き2回目のネパール滞在、今回の主題はIPM作物の販路拡大の可能性を探ることでした。具体的には、地元農家から卸売業者、ネット販売企業、レストラン、ホテルなどに現在使用している野菜の入手ルートなどについての聞き取りを行い、IPM野菜を販売するにはどのようなアプローチが必要か調査し、LGNスタッフ&メンバーへのプレゼンと調査レポートにまとめ、今後の活動に役立つと嬉しいことです。

ネパールの青果流通は、冷蔵輸送設備どころかまだ道路網などの基礎インフラが貧弱で、ひいては農家が得られる収入にも悪影響を及ぼしています。ネパール社会が抱える根本的課題と向き合いながら、いかに農家の生計を向上させる仕組み作りを行うか。粘り強い努力が必要とされています。LGJとはオランダより関係性を維持していきたいと思います。

■ その他 当会事業に関係してくれた 専門家 の皆さんを紹介します。

- ・ 国際保健 帝京大学大学院 崎坂香屋子 准教授 (前：中央大学)
ゼミ学生の現地訪問による農民生活調査、インターンなどの調整
- ・ 種苗専門家 龍谷大学経済学部 西川芳昭 教授
農家の現在使用する種苗の調査を受けてのアドバイスなど
- ・ 村おこしへの助言 青山学院大学 コミュニティ人間科学部 准教授 (前：東京大学)
- ・ 農業協同組合活動指導 LGJ 理事 気賀沢忠文 氏
現在実施事業の中で生産者組合から出荷組合への道筋等の現場指導
一級建築士 平林繁 氏 土木専門家 山下雅人 氏 各位に 感謝 !!

■ バネパ市に緑を育て、守る住民参加型都市緑化推進事業 (継続 3 年目)

(緑の募金—国土緑化推進機構)



バネパ市で実施する<都市緑化の復活事業>は 3 年継続事業として 2019 年 6 月末で支援は完了しました。植林事業は長い視点での取り組みが求められます。バネパ市で始まった住民を巻き込んだ活動は緑の復活を直接目にする事で、広がりを見せてきたことは確かです。街路樹などを育て管理する習慣のないネパールでは植林への取り組みは見られませんでした。住民個人の思いで始まった木を植える行動は珍しい例です。本年度は植林用の苗木を育てる

苗床施設を建設して、苗の供給が随時可能とすることでした。木も育ち、行政も植林地の提供や管理等々協力的な対応をとるようになってきています。支援は一段落しましたが、今後もバネパ植林グループの活動は継続していきます。10 年後、緑は定着することで、バネパが緑の目立つ街になることが期待されます。

* * 町の緑復活を記録したビデオを製作しました。

■ アナイコット村、有機農業研修センターにおける女性利用者を配慮した施設改修工事 (ゆうちょ財団)

パンチカール市アナイコット地区にある有機農業センターは宿泊施設の改修、シャワー室とトイレの増設、調理場の設置を実施しました。

2018 年 12 月 6 日大地を守る会 (現オイシックス) 会長：藤田氏一行 8 名がこの施設を利用してホームスティをしました。三箇氏とも縁があり、現場で有機農法について意見交換がありました。藤田会長から<ここには何かしてみたい夢が存在している。>との言葉あり！今後は野菜の流通などについて、<大地を守る会>発足時の夢があふれる気持ちでアドバイスを期待しています。



(写真 右から 3 人目が藤田氏)

■ 文京学院大学 学生 9 名による スタディツアー



2/6～2/9 の 4 日間、文京学院大学 助教授 甲斐田きよみ氏のゼミ学生 9 名がスタディツアーでパンチカール・パトレケット・アナイコットを訪問しました。パトレケットのホームステイやアナイコット研修センターのファームステイなど、村での宿泊に不安を抱いている学生もいましたが、意外とすぐに順応していました。また、農村の女性グループへのインタビューや、アナイコットの農家訪問では 1 日の農家のスケジュールの聞き取りや農家の周りの畑の位置図を作成などの課題も、

農家の人々の協力のおかげで無事にできました。特に、ラブグリーンネパールの奨学生ジュニアリーダークラブの女子たちとの交流では、初めは互いに恥ずかしがっていましたが、折り紙や書道をしたりしているうちにだんだん打ち解けてきて、女子たちの生活の様子をインタビューする時も楽しそうで、大いに盛り上がりました。

なお、村の人々とのインタビューを通じて、実際の農村の生活が、日本で予想していたこととの違いに、学生たちは戸惑いもあったようですが、気づきも多かったことと思います。この体験が、もっといろいろなことを見たい・知りたいというきっかけになれば幸いです。

■ 息子と二人旅 in Nepal ラブグリーンジャパン ボランティア職員 中村愛



私は 2013 年 7 月から 2 年間、青年海外協力隊としてネパールで活動していました。

首都カトマンズは建設ラッシュで子どもが安心して遊べる所はほとんどなく、乾燥による土煙やバイクや車による排気ガス、粉塵が酷く（PM2.5 濃度世界最悪）道も凸凹で道路からワイヤーが出ていたりゴミがあつたり、バイクや車が急に出てきたりと危なく、手を繋いで歩かせることもできません。なるべく早く田舎に行きたかった私たちでしたが、ストライキや爆発事件などにより思うようには行きませんでした。息子は新しい環境に適應する際の興奮からか、外遊びできない運動不足のため寝付かず、12 キロの息子を抱っこして外出し寝かしつけることが私の日課となっていました。（ネパールの母たちは公園無しにどのように子育てしてるのでしょうか？）そして、待ちわびた村での生活。そこで息子はイキイキと始めました。自分の足でいろんなところに行けるのが楽しかったのでしょう。村の滞在で食欲も戻り安心！触れなかった動物にも触るようになったり、初見の人は敬遠するタイプの息子が自らちょっかいをかけるように。母子ともに楽しい日々を送りました。

2 歳児との旅は制限がある一方で、子どもの目線で見ることにより、以前は感じなかったことに気づかされることが多くあり、ネパール農村部にあつた新しい一面をみた思いでした。この旅で得たことを糧に自分の進むべき道を考えていきたいという体験となりました。

■ **とても 長い付き合いとなりました。**
ナンダ・プラサッド・ラミシャネ 氏
Nanda Prasad Lamichhane

1946年生まれ73歳になります。当会が1991年に初めてパンチカール村で植林事業を開始した時のリーダー農民のひとりです。

今、健在のリーダーは残り少なくなりました。息子たちは海外生活、奥さんと二人暮らし。2002年、日本に招待して堆肥づくりなどを学んでもらいました。当時、村出身者を日本に招く



ことは珍しい取り組みでした。氏は上位カーストのブラミンで、厳格な生活風習を維持しており、村人から尊敬される人物であり、灌漑設備敷設グループの代表を務めています。当会がパンチカール市において農業削減を目指して、草の根事業を開始するにあたり、力強く変わらぬ支援を約束してくれました。氏とは長い付き合いとなりましたが、お互いに培ったネパールの深い縁はこれからも続いていきます。

■ **天日干し 切干し大根 & ワサビ栽培 に挑戦！ しています。**



マクワンプル郡（タハ市）バジャラバラヒ村のシャンカール・マハラジャン氏(40歳)は、2010年から2017年まで当会が実施した農村開発プロジェクトの中のモデルリーダー農家の一人です。彼は、リーダー農家の中のまとめ役として、当会の事業にとっても協力的でした。プロジェクト終了後も切り干し大根作りをしているのは彼の家族です。続いてワサビ栽培に挑戦！初めは日本人の思いつきに付き合ってくれているのかなあと思いましたが、実は彼自身も新しいことにチャレンジするのが好きで、研究熱心でもあります。ワサビの苗床作りも自ら youtube で

ネパールの栽培環境にあったいい方法がないか探して工夫をしています。

2018年10月、わさびの種500粒をバジャラバラヒ村にて種付け、十数株の芽が出ました。更に2019年6月には苗を30本ほど植え込みました。ワサビができるまで、まだまだ時間がかかります。成功すれば、将来に向けていいビジネスに?!彼の奮闘は続きます。



***** **好評の切り干し大根 今年も販売します。** *****

シャンカールさんの切干大根、欲しい方はLGJ事務局にお問い合わせください。

2018年10月～2019年9月の動き

2018年10月6-7日よこはま国際フェスタに出展

2018年11月12日-12月21日 相川 政夫 ネパール事務所 駐在

15日-11月22日 福島大学 教授 金子 信博氏 パンチカール市土壌調査

16日-12月15日 かがしま有機生産組合 三箇 良治氏 有機農業指導

2018年12月4日 鈴木 倫子 龍谷大学にて活動紹介

6-7日 大地を守る会・オイシックスグループ アナイコット村有機農業研修センターを視察

2019年1月7日 理事会開催 鎌倉事務所にて

12-18日 鈴木 倫子 種子に関するネパールでの調査の調整

2018年2月5-14日 文京学院大学 甲斐田きよみゼミ スタディツアー 受け入れ

2019年3月 ゆうちょ財団「アナイコット村有機農業研修センターにおける

女性利用者を配慮した施設改修工事」終了

2019年5月 7日-6月20日 鈴木 倫子 ネパール事務所 駐在

7日-6月7日 インターン 中杉 淳也さん 市場調査

16日 JICA 横浜 新任所長に挨拶訪問 草の根事業の説明

18-19日 あーすフェスタかながわに出展

2019年6月5日 世界環境デー パンチカール市の小学校にて植林

10-20日 相川 政夫 現地視察

緑の募金事業「ハネパ市に緑を育て、守る 住民参加型都市緑化推進事業」終了

2019年7月11日 JICA 横浜訪問 事業の打ち合わせ

2019年8月2-9月27日 鈴木 倫子 ネパール事務所 駐在

8-16日 京都大学 客員准教授 伊東さなえ氏 将来に向けて市場の調査

9-11日 JICA 教師海外研修 パトレケット村にてホームステイ・

パンチカールプロジェクトサイト訪問受け入れ

15-24日 気賀沢 忠文氏 パンチカール市における組合活動の指導

31日-9月10日 文京学院大学 助教 甲斐田 きよみ氏 調査受け入れ

2019年9月9-24日 かがしま有機生産組合 三箇 良治氏 有機農業の指導

18-24日 JICA 横浜 ネパール事業地視察

28-29日 お台場 グローバルフェスタに出展



当会の日常活動についてはフェースブック <ラブグリーンジャパン> でご覧ください。

平成 30 年度会費納入・募金ありがとうございました。

(2018 月年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日)

竹田總一郎 飯田よし江 太田輝 三井良子 土岐操 望月よし江 中澤やす子 中沢千恵子、庸眞
内田ふき野 和泉田初代 三田健一・悦子 長谷川潤 山下雅人 大石正子 海老澤健 本間ピアノ
大堀研 鍵谷修 坂本洋子 宮原靖代 高柳紘子 鈴木勝雄・芳子 鈴木開・統真 中澤正子
中村愛 仁科博道 隅田一明 碓賢治 崎坂香屋子 吉井万里子 草野明子 ナカザワ包材(株)
宮内孝久 石原仁事務所 坂本 鶴田厚子 飯嶋恭子 財満忠世 奥津由紀子 木島文義 中島啓司
曾根純雄 奥津良博 蛭名 柴一朗 調布むらさきロータリークラブより(阿部・小川・新井・田
中・渡辺) 相川記子 成瀬章 山林オサム 甲斐田きよみ 睦好絵美子 正治 小野文子 倉科和子
川戸直紀 他 匿名希望の方 感謝申し上げます。(敬称略)

昨年度は会費納入をお忘れの方 がいらっしゃいました。**年に一度の会報**でお知らせして
おります。

どうぞ、**引き続いてのご支援をよろしくお願いいたします。**

皆さんのご支援によって、私たちの活動は継続されていきます。

1口 5,000円 1口 以上をお願いいたします。

ご住所、お名前、電話番号、口数を記入して下記へお振込みください。

振込先 (郵便振替) 00250-3-76570

(銀行振込) 三井住友銀行 日比谷支店 普通 8044951

特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

尚 ご意見やご感想なども事務局へ どのしお送りください。

編集後記

2019年3月上旬スタッフに促されネパール出発を控えて、健康診断を受けた。医師から大腸がんステージ4 あっさり結果が告げられた。古希を迎えて、健康診断や病院には縁がなく過ごしてきた元気がとり得の人生と思っていた。急遽、渡航は中止して、抗がん剤投与が始まった。入院治療をすることはなく、普段通りに事務所通いをしている。

6月、医師の許可が出てネパール訪問を実現した。癌に対しての捉え方は日本と違って、私の余命は残されていない印象だったのか、知り合いは深刻な表情で受け入れていたようだ。誰もが目を見つめて心配を表現していた。日本では感じられなくなった心の優しさがそこにはあった。村から油絵を持って会いに来てくれたプロモット君言葉は通じないが、彼の心情は絵画と表情を通じて私には伝わっていた。2017年暮れに急死したサンガット氏には与えられなかった時間が私にはある。世の中にあるいろんな問題を避けることなく意見、行動をしていきたいと思う。またネパール事業について、私流に精いっぱい力を注ぎたいと改めて感じている。私は以前にもまして、内面は元気であると関係者の皆さんにこの場を借りてお伝えしておきたい。 **ファイト！！**

Ai